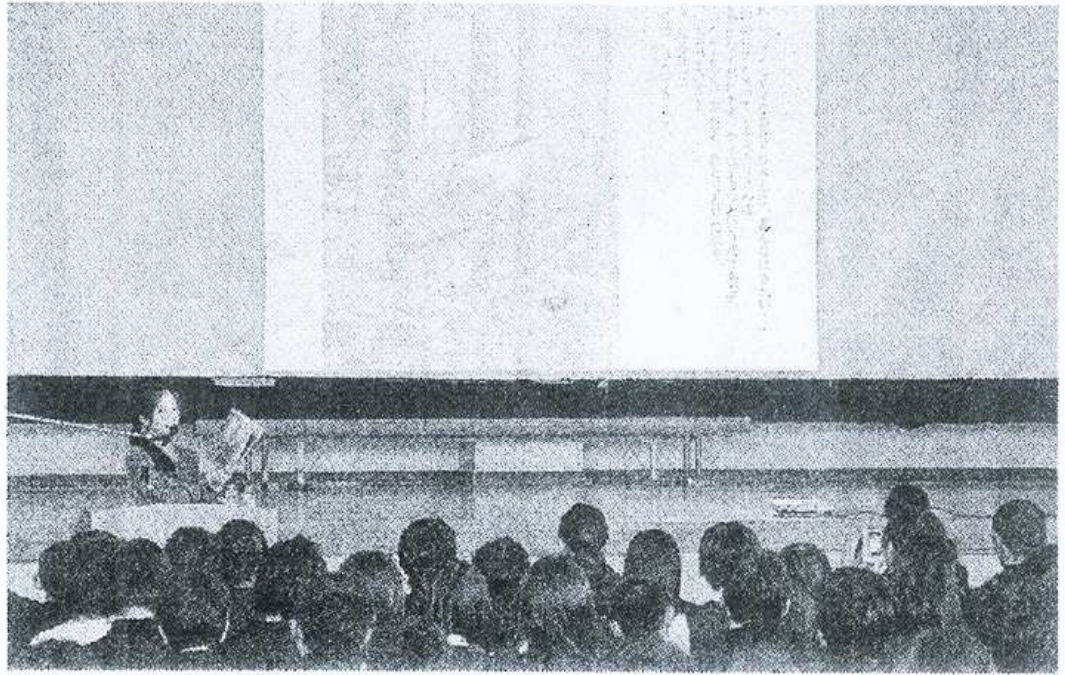


# 支え合う大切さ訴え

平塚・金目中 命を考える講演会



いじめや自殺の問題を受けて、中学生に命の大切さ、心の病気について考えてもらう「生き方講演会」が30日、平塚市立金目中学校(南

金目、村山真由美校長、生徒267人)で開かれた。絵本「カーくん」の作者で森のなかまたちの作者で画家の夢から丘実果さん(絵)、児童

スクリーンに絵を映しながら、「カーくんと森のなかまたち」の読み聞かせをする夢ら丘さん(平塚市立金目中体育館(南金目))

教育評論家の吉澤誠さん(文)が、講演と読み聞かせ、生徒との質疑応答を通じて、支え合って生きることの大切さを問い掛けた。

絵本「カーくん」は、自らの価値や生きる意味を見失い、うつ状態になった主人公が、仲間の優しさに触れて元気を取り戻す物語。

体育館で全校生徒に吉澤さんが「うつ」について説明。夢ら丘さんは読み聞かせに続き、いじめの体験談なども語り、自分や相手の良いところを見つけて、と、相手を思いやる言葉を

掛けることの大切さを説いた。

その後、生徒たちは各クラスに戻って絵本と講演について議論。相談し合える関係をどう築くのか、自分や人の価値をどう考えるのかなど、さまざまな意見を交わした。

(熊谷 和夫)